

主のぶどう園

マタイ 21 : 33 - 44

主のぶどう園 マタイ 21 : 33 - 44 ①

21:33 もう一つの譬を聞きなさい。ある所に、ひとりの家の主人がいたが、ぶどう園を造り、かきをめぐらし、その中に酒ぶねの穴を掘り、やぐらを立て、それを農夫たちに貸して、旅に出かけた。

21:34 収穫の季節がきたので、その分け前を受け取ろうとして、僕たちを農夫のところへ送った。

21:35 すると、農夫たちは、その僕たちをつかまえて、ひとりを袋だたきにし、ひとりを殺し、もうひとりを石で打ち殺した。

21:36 また別に、前よりも多くの僕たちを送ったが、彼らをも同じようにあしらった。

主のぶどう園 マタイ 21 : 33 - 44 ②

21:37 しかし、最後に、わたしの子は敬ってくれるだろうと思って、主人はその子を彼らの所につかわした。

21:38 すると農夫たちは、その子を見て互に言った、『あれはあと取りだ。さあ、これを殺して、その財産を手に入れよう』。

21:39 そして彼をつかまえて、ぶどう園の外に引き出して殺した。

21:40 このぶどう園の主人が帰ってきたら、この農夫たちをどうするだろうか。

21:41 彼らはイエスに言った、「悪人どもを、皆殺しにして、季節ごとに収穫を納めるほかの農夫たちに、そのぶどう園を貸し与えるでしょう」。

主のぶどう園 マタイ 21 : 33 - 44 ③

21:42 イエスは彼らに言われた、「あなたがたは、聖書でまだ読んだことがないのか、『家造りらの捨てた石が／隅のかしら石になった。これは主がなされたことで、わたしたちの目には不思議に見える』。

21:43 それだから、あなたがたに言うが、神の国はあなたがたから取り上げられて、御国にふさわしい実を結ぶような異邦人に与えられるであろう。

21:44 またその石の上に落ちる者は打ち砕かれ、それがだれかの上に落ちかかるなら、その人はこなみじんにされるであろう」。

主のぶどう園

マタイ 21 : 33 - 44

我々にどんな教訓を教えるのか？

ぶどう園とはイスラエルのことである

「神は、選民によって、全人類に祝福を与えようとして計画になった。「万軍の主のぶどう畑はイスラエルの家であり、主が喜んでそこに植えられた物は、ユダの人々である」と預言者は言った(イザヤ 5:7)。—国上序 3
神の民を通して全世界に祝福を与えることが神のみ旨であった

「ユダヤ民族を通して豊かな祝福を全人類に与えることが神のみ旨であった。イスラエルを通して、神の光を全世界に輝かせる道が備えられなければならなかった。世界の諸国は、墮落した習慣におちいることによって神の知識を失っていた。しかし、あわれみある神は彼らを滅ぼしたりなさらなかった。神は、教会を通して神を知る機会を彼らに与えようとして意図なされた。神は、神の民を通してあらわされる原則が、人間の中に神の道徳的なみかたちを回復する手段となるように計画された。

神が偶像礼拝をしていた親族のうちからアブラハムを呼び出してカナンの地に住むようにお命じになったのは、このみ旨を果たすためであった。「わたしはあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、あなたの名を大きくしよう。あなたは祝福の基となるであろう」と神は言われた(創世記一二ノ二)。—キ実 264

イスラエルの任務：律法を保管し、神の權威を世界に維持すること

「神の律法は高められ、神の權威は維持されなければならなかった。そして、イスラエルの家に、この高貴で大いなる任務が与えられたのである。神は、彼らにこの神聖な責任をゆだねるために、彼らを世界から分離された。神は彼らを神の律法の保管者とし、彼らによって、人々の間にご自身の知識を保存しようと意図された。こうして、天の光が暗黒に包まれた世界に輝き出て、すべての民に偶像礼拝を捨てて、生きた神に仕えるように訴える声が発せられたのである」。—国上序 2

その任務のために神はまず
エジプトから民を救い出した

神は「大いなる力と強き手をもって」神の選民をエジプトの国から連れ出された(出エジプト記 32 : 11)。「主はそのしもべモーセと、そのお選びになったアロンとをつかわされた。彼らはハムの地で主のしるしと、奇跡とを彼らのうちにおこなった」。「主は紅海をしかって、それをかわかし、彼らを導いて荒野を行くように、淵を通らせられた」(詩篇 105 : 26, 27, 106 : 9)。神は彼らを麗しい国、すなわち、神が摂理のうちに敵からの避難所として、彼らのために準備された国へ彼らを導くために、奴隷状態から彼らを救い出されたのである。神は、彼らをご自分のところに連れてきて、彼らを永遠の腕に抱こうとされた。そして彼らは、神の恵みとあわれみにこたえて、神のみ名を高め、神のみ名を地上で栄えあるものにすべきであった。—国上序 2

神はイスラエルをいたわり、保護された

「主の分はその民であって、ヤコブはその定められた嗣業である。主はこれを荒野の地で見だし、獣のほえる荒れ地で会い、これを巡り囲んでいたわり、目のひとみのように守られた。わしがその巢のひなを呼び起し、その子の上に舞いかけり、その羽をひろげて彼らをのせ、そのつばさの上にこれを負うように、主はただひとりで彼を導かれて、ほかの神々はあずからなかった」。—申命記 32:9-12

カナンをことごとく占領し、人々を幸福にする

「イスラエルの子らは神が彼らのために定められた地域をことごとく占有することになっていた。まことの神への礼拝と奉仕を拒む諸民族は立ちのかされるのであった。しかし、イスラエルが神のご品性をあらわすことによって人々が神に引きつけられることが神のみ旨であった。全世界に福音の招きが与えられなければならなかった。犠牲制度の教えを通してキリストは諸国民の前に掲げられ、それを見あげる者はすべて生きることができるのであった。

神は万国の民をご自分のあわれみある統治下に引き寄せたいと望まれた。神は地球を喜びと平和でみたしたいとお望みになった。神が人をお造りになったのは、人を幸福にするためであった。そして、人の心を天の平和でみたしたいと願っておられる」。—キ実 268

神の民に与えられた祝福

「もう一つの譬を聞きなさい。ある所に、ひとりの家の主人がいたが、①ぶどう園を造り、②かきをめぐらし、③その中に酒ぶねの穴を掘り、④やぐらを立て、それを農夫たちに貸して、旅に出かけた」。—マタイ 21:33

主は豊かな収穫を期待する

「神はこの民に大きな特権を与え、ご自分に満ち満ちている富によって彼らを豊かに祝福された。神は彼らが実を結ぶことを期待された。彼らはみ国の精神をあらわすべきであった。墮落した邪悪な世界のただ中であって、彼らは神のご品性をあらわすべきであった」。—キ実 263

主が期待している実とはどんな実か？

「神がモーセに教えられたような神のご品性をあらわすことは、ユダヤ民族の特権であった。・・・ 「主は彼の前を過ぎて宣べられた。『主、主、あわれみあり、恵みあり、怒ることおそく、いつくしみと、まこととの豊かなる神、いつくしみを千代までも施し、悪と、とがと、罪とをゆるす者』(出エジプト記三四ノ六、七)。これこそ神がその民に望まれた実であった。彼らは純潔な品性と、きよい生活と、恵みといつくしみとあわれみとで、「主のおきては完全であって、魂を生きかえらせる」ことを示さなければならなかった(詩篇一九ノ七)」。—キ実 263, 264

民の安全の保証：①律法と②聖所

「この民に神の託宣がゆだねられた。彼らは、真理と正義と純潔という永遠の原則、すなわち、①神の律法によってまわりを囲まれていた。これらの諸原則に従順であれば彼らは守られるのであった。従順でさえあれば罪の習慣によってみずから滅ぼすことがないからである。そして、国のまん中には、②ちょうどぶどう園のやぐらのように、聖なる神殿が置かれていた」。—キ実 266

品性形成のために神は

あらゆる便宜を与えた

「神は、その民イスラエルを、ほまれとし、栄光としようと思われた。あらゆる霊的な便宜が彼らに与えられた。彼らが神の代表者にふさわしい品性を形成するために役立つものは何であっても、さしひかえることなく神から与えられていた」。—キ実 266

「わたしが、ぶどう畑になした事のほかに、何かなすべきことがあるか。」—イザヤ 5:4

従順は安全だけでなく繁栄も与え世界の目を神に向けさせる

「アダムとエバは神への不従順によってエデンを失い、全地は罪のためにのろわれた。だが、もし神の民が神の教えに従うなら、その土地は豊饒(ほうじょう)と美を回復するのであった。神はみずから土地の耕作についての教えを彼らにお与えになった。だから、彼らは回復のために神と協力しなければならなかった。こうして神の支配下において、全地が霊的真理の実物教訓となるのであった。神の自然の法則に従うことによって地がその宝をうみ出すように、神の道徳律に従うことによって民の心は神のご品性を反映できるのであった。異邦人も、生ける神に仕えてこれを拝する者たちの優越を認めることであろう」。—キ実 267

しかしイスラエルは神のみ心を成就しなかった

「わたしはあなたを、まったく良い種のすぐれたぶどうの木として植えたのに、どうしてあなたは変って、悪い野ぶどうの木となったのか」。—エレミヤ書 2:21

「わたしが、ぶどう畑になした事のほかに、何かなすべきことがあるか。わたしは良いぶどうの結ぶのを待ち望んだのに、どうして野ぶどうを結んだのか。それで、わたしが、ぶどう畑になそうとすることを、あなたがたに告げる。わたしはそのまがきを取り去って、食い荒されるにまかせ、そのかきをとりこわして、踏み荒されるにまさせる」。—イザヤ 5:4, 5

農夫たちはぶどう園の実を専有したいと望んだ

「ユダヤ人は、・・・神を忘れ、神の代表者としての特権を見失った。彼らがどんなに祝福されてもそれは世界になんの祝福ともならなかった。彼らの特権はことごとく、自分たちの名誉を高めることに当てられた。彼らは神の要求なざる奉仕をおこたり、同胞に宗教上の指導と聖なる模範をたれることをしなかった。・・・

主のぶどう園を託された農夫は、その信任に不忠実であった。祭司や教師は民を忠実に教えなかった。彼らは神のいつくしみとあわれみを入びとの前にかかげず、神に対して彼らの愛と奉仕をささげなければならないことを示さなかった。これらの農夫は自分の名誉を求めた。彼らはぶどう園からとれる実を専有したいと望んだ。彼らは入びとの注目と尊敬を自分に集めようとばかり気をつかった」。—キ実 270

職務に対して鈍った感覚

「神がぶどう園の領主であり、民の所有物は、みな神のために用いるように委託されたものであることを、主は入びとにお教えになった。しかし祭司や教師はその神聖な職務を、神の財産を扱う態度で遂行しなかった。彼らはみわざの前進のためにゆだねられた資力や便益を常習的に盗んでいた。彼らは、どん欲のために異邦人からさえ軽べつされるほどであった。こうして、異教の世界は、神の品性とみ国の律法を誤解するようになってしまった」。—キ実 271

恵まれた農夫たちの主人に対する態度

マタイ

21:34 収穫の季節がきたので、その分け前を受け取ろうとして、僕たちを農夫のところへ送った。

21:35 すると、農夫たちは、その僕たちをつかまえて、ひとりを袋だたきにし、ひとりを殺し、もうひとりを石で打ち殺した。

21:36 また別に、前よりも多くの僕たちを送ったが、彼らをも同じようにあしらった。

神は忍耐強く神の民に訴えられる

「神は父親のような心で、入びとを耐え忍ばれた。神は、ときにあわれみを与え、またときにはあわれみを取り去って、彼らに訴えられた。神はたゆまず彼らの罪を彼らに示し、しんぼうづよく彼らがそれを認めるのを待ち続けられた。預言者たちや使いの者たちが送られて、農夫に対する神のご要求を力説した。しかし彼らは歓迎されるどころか、敵のように扱われた。農夫たちは彼らを迫害して殺した。神はまたほかの使者をつかわされたが、彼ら

もはじめの使者たちと同じ扱いを受け、農夫たちは前にもまして激しい憎悪(ぞうお)をあらわした。—キ実 271

主人の最後の手段とその結果

マタイ

21:37 しかし、最後に、わたしの子は敬ってくれるだろうと思って、主人はその子を彼らの所につかわした。

21:38 すると農夫たちは、その子を見て互に言った、『あれはあと取りだ。さあ、これを殺して、その財産を手に入れよう』。

21:39 そして彼をつかまえて、ぶどう園の外に引き出して殺した。

農夫たちの最後

マタイ 21:40 このぶどう園の主人が帰ってきたら、この農夫たちをどうするだろうか」。

21:41 彼らはイエスに言った、「悪人どもを、皆殺しにして、季節ごとに収穫を納めるほかの農夫たちに、そのぶどう園を貸し与えるでしょう」。

21:42 イエスは彼らに言われた、「あなたがたは、聖書でまだ読んだことがないのか、『家造りらの捨てた石が／隅のかしら石になった。これは主がなされたことで、わたしたちの目には不思議に見える』。

21:43 それだから、あなたがたに言うが、神の国はあなたがたから取り上げられて、御国にふさわしい実を結ぶような異邦人に与えられるであろう。

21:44 またその石の上に落ちる者は打ち砕かれ、それがだれかの上に落ちかかるなら、その人はこなみじんにされるであろう」。

イスラエルの最後

「滅亡は、はげしい欲情のままに放縱な生活におちいった彼ら自身の招いたものであった。彼らは怒り狂って、たがいに殺しあつた。彼らの頑固さと反逆的な高慢さがローマの征服者たちの怒りを招いた。エルサレムは滅ぼされ、神殿は廢虚と化し、その跡は畑のように掘り返された。ユダヤ人はせいさんな死をとげた。幾百万の人々がどれいに売られ、異邦諸国で働く身になった。

ユダヤ人は民族として神のみ旨をはたすことができなかつた。そしてぶどう園は彼らから取り去られた。彼らが乱用した特権、彼らが軽んじた務めは他の者たちにゆだねられた」。—キ実 275

ぶどう園の教訓は今日の教会

にもあてはまる

現代の教会は、大きな特権と祝福を神から受けており、神はそれにふさわしい感謝の行為を期待しておられる。—キ実 275

神の原則を世界に示す

神の民の生活のなかに、みことばの真理の栄光と美とがあらわれなければならない。キリストは、神の民を通してご自分の品性とみ国の原理を示さなければならない。・・・

これらの原則は、クリスチャン個人において、家庭において、教会において、また神の奉仕のために立てられたあらゆる機関において明らかにされなければならない。これらはみな、世のためにどれほどのことがなされるかという象徴でなければならない。それらは福音の真理にはどんな救いの力があるのかを示す型でなければならない。これらはみな、神が人類に対して持つておられる大いなるみ旨を成就するてだてなのである。—キ実 276

キリストが渴望しておられる実

「彼らはへりくだった、くだけた精神を神のもとに携えてこなかつた。儀式がはなばなしくなり、多岐にわたるに至るのは、神の国の根本原理が失われたときである。・・・

教会は神の目に非常にとうといものである。その外面の装いではなく、世とは全くかけはなれた誠実な敬神さのゆえに、神は教会を重んじられるのである。神は、その教会員がキリストを知る知識にどの程度成長しているか、また、霊的な経験にどの程度進んでいるかによって教会を評価なさる。

キリストはそのぶどう園から、聖潔と無我という実を得たいと渴望しておられる。キリストは、愛と善意の原則を求めておられる」。—キ実 276, 277

賛美と感謝の礼拝によって

神の証人となる

主はわたしたちがそのいつくしみを述べ、その力を語るようにと望んでおられる。わたしたちが賛美と感謝を表現するときに主はあがめられる。「感謝のいけにえをささげる者はわたしをあがめる」と主は言われる(詩篇 50:23)。・・・

世界の人々は偽りの神々を拝んでいる。彼らをそのようなまちがった礼拝から引きはなさなければならないが、それは偶像を非難することによってではなくて、それよりも更にすぐれたものを見せることによってでなければならない。神のいつくしみを人々に知らせなければならない。「『あなたがたはわが証人である』と主は言われる」(イザヤ書 43 : 12)。—キ実 277, 278

神をたたえることは魂をキリストにかち取る最高の方法

真心から神をたたえることは、祈りと同様の義務である。罪におちいった人類への神の驚くべき愛を感謝するとともに、神の無限の富の中から、いっそう大きな祝福を受けることを待望していることを、わたしたちは世界と、そしてすべての住民たちに示さなければならない。わたしたちは今より以上に、もっと自分のとうとい体験を語る必要がある。聖霊が特別に注がれると、主にある喜びとその奉仕における能力とは、神の子らに対する神のいつくしみと驚くべきみわざをわたしたちが語ることによって、著しく増大するであろう。

こうしたことは、サタンの力を後退させる。それはつぶやきと不平の精神を取り去り、誘惑者を退却させる。それは地上の住民の品性を天の邸宅を継ぐにふさわしく涵養する。

こうしたあかしは人々に感化を及ぼす。魂をキリストにかち取るのに、これ以上有効な方法はない。—キ実 278, 279

実質的な奉仕をして神をたたえる

「わたしたちは実質的な奉仕をして—み名の栄光を増すためにできるかぎりのことをして—神をたたえるべきである。神はそのたまものをわたしたちに分け与えられるが、それはわたしたちも与え、こうして神のご品性を世に知らしめるためである。ユダヤの制度において、ささげ物は神の礼拝の重要な部分を占めていた。イスラエルびとは全収入の十分の一を聖所の奉仕にささげるように教えられていた。そのほかに彼らは、罪祭、任意のささげ物、感謝のささげ物などをたずさえてくることになっていた。これらは当時の福音の働きをささえる方法であった。神は昔の民に期待なさったと同じものをわたしたちにも期待しておられる。魂の救済という大事業は、押し進めていかなければならない。神は、十分の一やその他のささげ物を、このみわざのためにお充てになった。神はこうして福音の働きを維持しようと意図しておられる。・・・このすべては福音を地のはてにまで伝えるために用いられるものである」。—キ実 279

世の救いのための個人的な奉仕

神への奉仕には個人的な働きが含まれている。わたしたちは個人的に努力して、世の救いのために神と協力しなければならない。「全世界に出て行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えよ」というキリストのことは、主に従う一人一人に語られている(マルコ 16 : 15)。・・・

キリストを個人的な救い主として受け入れる者はみな、福音の真理とその救いの力の立証をしなければならない。神がお命じになることは、必ずそれをなしとげることができるように備えがされているのである。神の要求なさることは、キリストの恵みによってことごとくなしとげることができる。—キ実 279, 280

各自はその召されたままの状態で

神のみ前にいるべきである

キリストの追従者となるためには、自分が持っているものをすべて捨て、自分の十字架を負ってキリストに従わなければならない。商売人は、自分の商売を捨てなければならない。農夫は、自分の農場を捨てなければならない。職人は、自分の職を捨てなければならない。これは、直ちに自分の職業を離れることではない。パウロが、「各自は、その召されたままの状態、神のみ前にいるべきである」と助言しているからである(1 コリント 7 : 24)。しかしそれは、今後信者が自らの生涯についての権利と、持っているすべてを放棄することを意味する。主の指示に従って用いられるために、すべてが主に捧げられる。彼はただ、主の持ち物の管理者に過ぎず、商売であれ農業であれ、他の職であれ、主の事業として営むことになっている。・・・クリスチャンは、一つの事業のためにこの世に存在している。それは、すべての生けるものに福音を宣べ伝えることであり、彼がなすその他の事柄は、すべて生活の維持のために過ぎない。—人間の尊厳 113

我々は神に返礼をしているだろうか？

ところで、この偉大な賦与者にどんな返礼をしているだろうか。人々は神のご要求をどう扱っているだろうか。人類の大多数は、いったい何に奉仕をささげているだろうか。彼らは実に、富に仕えているのである。この世における財貨と地位と快樂が彼らの目標である。・・・人々は利己心を満足させるために神のたまものを用いている。—キ実 281

イスラエルに滅亡を招いた罪

今日の世界の罪は、イスラエルに滅亡を招いた罪と同じものである。

- ①神への忘恩、
- ②機会と恩恵をなおざりにすること、
- ③神のたまものをひとりじめにすること

—これらがイスラエルに怒りを招いた罪のもとであった。それはまた、今日の世界にも滅びをもたらしつつあるのである。—キ実 281

農夫たちに与えられた祝福

マタイ 21:33

「もう一つの譬を聞きなさい。ある所に、ひとりの家の主人がいたが、①ぶどう園を造り、②かきをめぐらし、③その中に酒ぶねの穴を掘り、④やぐらを立て、それを農夫たちに貸して、旅に出かけた」。

神が現代のぶどう園セブンスデーアドベンチスト教会に

与えられた祝福

①イエス・キリストが天の聖所の至聖所に移られたという知識&最後の贖いの真理。(ハイラム・エドソンに与えられた幻から)

②イエス・キリストが天の至聖所から出てこられるとき地上に迎えに来られるという知識(エドソン、ハーン博士、O. R. L. クロージャー)

③第四条を含んだ十の戒めの全ては今日も拘束力をもつという知識。(ジョセフ・ベーツの主張)

④預言者(エレン・ホワイト)

⑤大争闘の幻(律法に関するキリストとサタンとの戦い)

⑥三天使の使命の知識(調査審判、日曜休業令、14万4千の特徴)

⑦人間の死後の状態、心霊術の正体に関する知識

⑧衛生改革や医療施設

⑨教育に関する知識や諸学校

⑩終わりの時代に必要な光を載せた出版物と印刷所

⑪信仰による義認のさらに進んだ知識(1888年ジョーンズ&ワグナー)

神は、これらの祝福をSDAに与えて、恵みによって品性という実を期待される。

①神への忘恩、②機会と恩恵をなおざりにすること、③神のたまものをひとりじめにすること

忘恩：

偉大な贖いの計画を感謝しないこと

主は、わたしたちが偉大なあがないの計画をよく理解し、神の子供たちとしての大いなる特権を認識し、感謝しつつ従順にそのみ前を歩むことを、望んでおられる。主はまた、わたしたちが毎日喜びつつ、新しい生命にあふれて主に仕えることを望んでおられる。小羊のいのちの書に名前をしるされた感謝と、またわたしたちのためにみ心をお痛めになる神にわたしたちの心配事をおまかせすることのできる感謝とが、わたしたちの心のうちにわいてくるのを、神は望んでおられる。—キ実 278

あわれみの期間はもうほとんど残っていない

あわれみと特権の期間は、もうほとんど残っていない。・・・神の恵みをこぼんだ者たちは、急速な滅亡、とりかえしのつかない滅亡に、まさに巻き込まれようとしている。

だが世界は眠っている。人々は自分たちの審判の時を知らない。—キ実 281, 282

しかし教会はその任務の

責任を感じていない

この危急のときに、教会はどういう態度をとっているだろうか。教会員は神のご要求にに応じているだろうか。またその任務をまっとうし、世に神のご品性をあらわしているだろうか。彼らは最後のあわれみの警告に同胞の注意を促しているだろうか。—キ実 282

まだ全地を占領していない

イスラエルはカナンにはいったとき、全地を占領して神のみ旨をはたすべきであったが、そうしなかった。彼らは

一部の領土を征服すると、ただ勝利をおさめたところに落ちついてしまった。彼らはその不信仰と安逸を求める心とから、すでに征服した所にかたまってしまう、新しい地域の占領に向かって前進しようとしなかった。こうして彼らは神から離れはじめた。神のみ旨をはたさなかった彼らは、神が祝福に満ちた約束を果たすことができないようにした。今日の教会も同じことをしていないだろうか。福音を必要とする全世界を目の前にしながら、キリストを言い表わす者たちは、福音の特権をたのしむことができるところにかたまっている。彼らは新しい地域に乗り出して救いのおとずれを遠隔の地方に伝える必要を感じていない。「全世界に出て行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えよ」というキリストの任命を彼らははたそうとしていない(マルコ 16:15)。ユダヤの教会と比較して彼らの罪は軽いと言えるだろうか。—キ実 282, 283

生産者でなく消費者と記録される者が多くいる

キリストに従う者であると公言する者たちは宇宙の前でさばかれている。ところが、彼らの神に対する奉仕が不熱心で努力が足りないために、彼らは不忠実のそしりをまぬかれることはできない。もし彼らのしていることが全力を尽くしているのであれば、彼らは非難を受けないであろう。だが、神の働きに心をこめてするなら、彼らはさらに多くのことをなすうるはずである。彼らが自己否定と十字架を負う精神を大部分失っていることは、彼ら自身も知っていれば世も知っている。天の記録に、生産者ではなく消費者としてその名前が書きこまれる者がおおぜいいる。—キ実 283

ぶどう園の収穫を
主に返さない罪とは

自然界におけると同じく霊的な世界においても、神の法則への従順が、実を結ぶための条件である。そして神の戒めを無視することを人に教えるなら、それは神の栄光のために実を結ぶのを妨げることである。そのように教える者は、主のぶどう園の収穫を主に返さない罪を問われるのである。—キ実 285

主の働きの奉仕をしないことの
警告に耳を傾ける

神の警告になんの注意をも払わずに見すごしてよいであろうか。奉仕の機会を活用しないでよいであろうか。世のあざけり、理性の誇り、人間の慣習や言い伝えの尊重などのために、キリストの弟子と公言する者がキリストに対する奉仕をしないでよいであろうか。キリストの弟子であると公言する者は、ちょうどユダヤの指導者たちがキリストを拒んだように神のみことばを拒むのであろうか。イスラエ今日教会は警告に従うであろうかの罪の結果は、わたしたちの前に明らかにされている。—キ実 286

セブンスデーアドベンチスト教会の使命は
至聖所において最後の贖い
の段階に入られた
贖罪の犠牲と
全能の仲保者である
キリストを諸国民の前に
掲げることである

「彼らが神の代表者にふさわしい品性を形成するために役立つものは何であっても、さしひかえることなく神から与えられていた」。—キ実 266

「わたしが、ぶどう畑になした事のほかに、何かなすべきことがあるか。」—イザヤ 5:4

神は全世界を祝福する計画を
最後の時代まであきらめない

「麗しきぶどう畑よ、このことを歌え。主なるわたしはこれを守り、常に水をそそぎ、夜も昼も守って、そこなう者のないようにする」(イザヤ書 27:2, 3)。

イスラエルのための永遠の
み心は成就する

イスラエルは、神を待ち望んでいよう。ぶどう畑の主は、今なお、あらゆる国々や国民の中から彼が長く待っておられる尊い実を集めようとしておられる。間もなく彼は、ご自分の民のところに来られる。そしてその喜ばしい日に、イスラエルの家のための彼の永遠のみこころは成就されるのである。「後になれば、ヤコブは根をはり、イスラエルは芽を出して咲き、その実を全世界に満たす」(イザヤ 27:6)。—国上序 7